

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：35405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02645

研究課題名(和文)音楽鑑賞授業における舞踊の指導を応用した音楽活動モデルの開発

研究課題名(英文)Development of music activity model applying dance instruction in music appreciation class

研究代表者

森保 尚美(Moriyasu, Naomi)

広島女学院大学・人間生活学部・教授

研究者番号：70748889

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：身体をつかった音楽活動は、音楽科授業で音楽の特徴を知覚・感受する方法として用いられてきた。本研究では、様々なジャンルの舞踊家の指導場面から、曲種の特徴や、音楽のルーツを深く感じることのできる動きを切り取り、子どもたちが模倣して遊ぶ活動として音楽活動の範囲を拡大し、小学校の授業やワークショップの実践を通して考察した。

拍やリズムの特徴を感じる経験によって、楽譜には記載できない質の認識や、音楽の多様性への理解、文化的背景や先人に感情移入して捉える等の成果が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、第1に音楽科教育として舞踊の指導過程を応用する意味を明示したこと、第2に質の認識を体感的に学ぶための音楽活動モデルを提出できたことである。

本研究の社会的意義は、第1に多国籍化の進む日本の実態をふまえて、地域文化のよさを感じる音楽活動を提示できたこと、第2に多様性への理解につながる取り組みを感情移入や体感を通じた音楽活動として提案できたこと、第3にコロナ禍においても授業で実践できる音楽活動を提案できたことである。

研究成果の概要(英文)：In this study, we proposed a lesson that promotes cultural understanding and understanding of diversity through activities that cut out and imitate part of dance movements of various genres. Some activities were practiced in elementary school classes and workshops.

It can be said that the record written by the child promoted a deep understanding of music because there was a description that embraced emotions in the cultural background and a description that understood the diversity of beats.

研究分野：音楽科教育 音楽科授業開発

キーワード：音楽活動 質の認識 拍 舞踊 身体

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の課題意識は、「授業における音楽活動は、長期間にわたって実践され、継続的に評価されてきたが、曲のジャンルや文化の特質を鑑みた音楽活動として十分であるとは言えない」ということであった。例えば、譜面上では同じリズム型であっても、足のリズムから発祥したリズムと、手の動きから発祥したリズムでは、音楽として立ち現れた時の質感が異なり、それらの特質を聴き取るためには、曲に応じた音楽活動の個別化が必要だと考えたからである。そこで、曲のルーツや、曲の背景にある文化の特質に依拠した音楽活動を提案することで、児童の曲に対する質的な認識が深くなると仮定して研究を開始した。

公的資料においても、感じ取ったことを身体で表現したり（学習指導要領第4次改訂：昭和43年）、主旋律を歌唱したりするなど、音楽活動を通じた音楽鑑賞方法を推奨してきた。第5次改訂（昭和52年）では鑑賞したことを活かして表現したり、創作したりする「表現と鑑賞の関連を図る指導」が提唱された。実践の場では、聴いて感じたことが音楽の諸要素の何に起因しているか問うような指導が多くなされるようになった（佐藤，2011）。そして第8次改訂（平成20年）では、旋律の動きを身体で表したり、指揮をしたりする音楽活動を通して、感じ取ったことと音楽の構造を関連づける言語活動が周知されるようになった。

このように、音楽活動には、聴取能力を高め、分析的な認識を促すという役割が求められ、その効果が実証されてきたものの、曲の起源にある重要な特質である文化への着目は希薄である。

2. 研究の目的

本研究では、文化の特質に依拠して音楽活動の個別化を追究し、伝統的な舞踊や民謡を参考にして音楽鑑賞授業に応用できる音楽活動モデルを開発することを目的とした。伝統的な舞踊や民謡に着目した理由は、音楽の教科書に散見されているリズム名への疑問に由来する。すなわち、「メヌエット」や「ワルツ」などのように単語としては表現されながら、舞踊や動きのイメージへアプローチされることは少なく、元来の意味が認識されていないのはなぜかという疑問である。小学校の音楽科教育において、曲のルーツや文化的な背景へのアプローチが不足していると考えた。

具体的な到達目標は、下の3つであった。

- ①舞踊リズムから由来した《メヌエット》や《ガボット》などの曲について、バロックダンスやバレエの指導場面から音楽鑑賞授業に応用できる音楽活動を明らかにする。
- ②《貝殻節》《よいしょこしょ節》などの民謡リズムについて、民謡の指導場面から音楽鑑賞授業に応用できる音楽活動を明らかにする。
- ③小学校の授業や小学生を対象とするワークショップで検証を行い、教育用資料を作成・公開する

3. 研究の方法

- ①バレエの初学者における文献収集と指導場面の分析、バロックダンス及びリトミックの指導場面の調査・分析を行い、音楽活動モデルを構想し、授業計画にとり入れる。
- ②小学校における授業に参画したり、小学生を対象としたワークショップを開催したりして、構想した音楽活動モデルを実践する。
- ③実践の結果から、構想した音楽活動モデルを修正して発表する。

4. 研究成果

○1年次

バンブーステップの経験を授業過程に組み込んだ音楽鑑賞とメヌエットステップの経験を組み込んだ音楽鑑賞授業を構想し、第4学年～第6学年までの学級で実施した。どの学級も同じ掲示物、同じワークシートを用いて実施した。

ワークシートの記述をM-GTA（修正版グラウンデッド・セオリーアプローチ）により分析した結果、「同じ4分の3拍子でも、弾む感じや、ふわふわする感じなど、いろいろな拍の感じがあることがわかった。」という質的な認識を深めた記述や、「優雅な踊りだから、ゆったりした拍の流れがある」等、動きや舞踊と関連させた拍感への気付きが記述された。踊る経験を経て分析的に聴いたことにより、楽譜上では表せない、拍やリズムの質を感受できることが示唆された。

研究の成果は学会において「音楽鑑賞授業におけるリズムと音楽活動の関わりに関する研究—踊りのリズムに着目して—」というテーマで口頭発表した。また、『身体』と『文化』に着目した音楽鑑賞授業の研究—オーセンティックな学びから捉えた授業検討を通して—として論文にまとめた（査読付）。

バレエの動きに関しては従来から調査を行っており、バレエ初心者を対象とする指導用DVDから音楽と動きの関係を調べ、「バレエ練習における子どもの動きを活用する音楽鑑賞指導法の検討」というテーマで本学の研究紀要にまとめた。

○2年次

文化的視点を強調・明示した Silver Burdett Ginn 社(アメリカ)の教科書『The Music Connection Grade 5』の題材構成を調査し、日本における音楽の教科書題材の内容と比較した。

The Music Connection Grade 5には、スタイルの多様性や、ジャンルの多様性、社会的関連性のある教材が多く編集されていることや、歌唱・動き・聴取・器楽・音楽づくりなど、日本の学習指導要領における領域や分野を横断する学習過程が示されていることがわかった。外国人労働者が増え、日本語指導が必要な児童が急増しているなかで、教科書教材の内容の多様性や、社会的なテーマに関連させる取り組みの意義は高まっている。

また、歌唱、器楽、音楽づくりと同様に、「動き」という領域が取り上げられていることも、日本の音楽教育に示唆を与えるものと考え、「教科書における音楽鑑賞領域の文化的視点」をテーマにした学会発表を行い、論文としてまとめた。

また、2年間の研究内容を「舞踊の身体活動を通じた音楽鑑賞に関する質的研究―「拍」概念の多様性に注目して―」として学会へ論文投稿した(査読付)。

フィールドワークとしては、トラディショナルな民謡を幼児の音楽活動として紹介したリトミック研究者や、日本舞踊を専門とする講師による子ども民謡教室を観察し、指導者へのインタビューを行った。リトミック研究者からは、ヨーロッパから伝わり日本に定着している子どものうたのリズムのルーツに基づき、ダンスステップの演習を通して本研究へのヒントを得た。子ども民謡の指導場面からは、扇子の開閉の練習や身振りから、日本の特徴的なリズムや、伝統的な拍感がどのような身振りに表れているのかを見出すことができた。

○3年次

コロナ感染拡大により県外出張の自粛が求められ、中国地方における日本民謡の研究(3項②)に着手することができなかつたため、広島市立小学校において、これまでに試行してきた鑑賞授業を、遠隔授業と対面授業で再び実施し、遠隔授業の功罪について考察した。遠隔授業においても対面授業においても、音楽のルーツや、人と音楽との関わりなどの文化的視点を扱うことで、曲にまつわる知識は増加し、聴取力においても小学校教諭との連携によって育成できる可能性が示唆された。

○4年次

引き続き県外へのフィールドワークが制限されていたため、広島市立小学校において、これまでに試行してきた授業について、舞踊ステップの視聴活動を行った場合と、舞踊ステップの体験活動を取り入れた場合で、音楽を鑑賞したときの知覚・感受の様相を比較した。

児童のワークシートをM-GTA(修正版グラウンデッド・セオリーアプローチ)で分析した結果、視聴活動では楽譜上の音高やリズム、動きの詳細に関する気づきが多く記述され、体験活動では体感を通して曲に対する質的な認識の多様性が記述され、感情移入を伴う記述も多くみられた。研究の成果は、「音楽鑑賞授業における視聴活動と体験活動の比較」というテーマで学会発表した。

その他、学内でワークショップを行うことができたため、これまでに実践できなかった舞踊ステップや、民謡の動きを、大学に招集した小学生(1学年から4学年)に実践した。模倣の実現状況は学年齢に比例せず、個別に得意な動きやリズム感があることがわかった。これらの成果について、学会で発表し、一部は教育用資料として写真を用いた冊子を作成した。また、許諾が得られた動画を一部 web 資料で公開した(researchmap)。

引用文献

- ・佐藤真美子(2011)「小学校音楽科における鑑賞共通教材の取扱い方に関する研究:『教育音楽』の指導事例の分析を中心に」音楽文化教育学研究紀要 22・23号 pp.143-148

Web 資料

- ・国立教育政策研究所「学習指導要領データベース
https://www.nier.go.jp/yoshioka/cofs_new/index.htm (2022年6月閲覧)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 68
2. 論文標題 「身体」と「文化」に着目した音楽鑑賞授業の研究：オーセンティックな学びから捉えた授業検討を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域	6. 最初と最後の頁 317-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/48501	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 4
2. 論文標題 教科書における音楽鑑賞領域の文化的視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校音楽教育実践論集	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 5
2. 論文標題 バレエ練習における子供の身体的経験を活用する音楽鑑賞指導法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島女学院大学幼児教育心理学科紀要	6. 最初と最後の頁 23,30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 3
2. 論文標題 音楽鑑賞授業におけるリズムと音楽活動の関わりに関する研究 踊りのリズムに着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校音楽教育実践論集	6. 最初と最後の頁 47,48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 43
2. 論文標題 舞踊の身体活動を通じた音楽鑑賞に関する質的研究－「拍」概念の多様性に着目して－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 11,24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18993/jcrdajp.43.2_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森保尚美	4. 巻 5
2. 論文標題 音楽鑑賞授業における視聴活動と体験活動の比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学校音楽教育実践論集	6. 最初と最後の頁 22,23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 森保尚美
2. 発表標題 教科書における音楽鑑賞領域の文化的視点
3. 学会等名 日本学校音楽教育実践学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森保尚美
2. 発表標題 音楽鑑賞授業におけるリズムと音楽活動の関わりに関する研究 踊りのリズムに着目して
3. 学会等名 日本学校教育音楽実践学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森保尚美
2. 発表標題 音楽鑑賞授業における視聴活動と体験活動の比較
3. 学会等名 日本学校音楽教育実践学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究成果webサイト https://www.rhythm-music.jp/ 2022年3月 「歌で踊るダンスで聴く 文化を感じる活動事例」</p> <p>研究成果パンフレット 「歌で踊るダンスで聴く 文化を感じる活動事例」2022年3月 pp1-6 researchmapでpdf資料公開 東雲楽友会常任理事会配布</p> <p>東雲楽友会夏季講習会講師「歌で踊るダンスで聴く」2022年8月22日開催</p>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------